

# *Wonderland Series*

## 英語で「やり取り」を続けたくなる教材

### 【1】*Wonderland Series*

*Wonderland Series* には、次の 3 冊のテキストがあります。

- ① *English in Wonderland* (Green Book)
- ② *Welcome to Wonderland* (Blue Book)
- ③ *Welcome to Wonderland* (Red Book)

※各冊に CD があり、指導者が子どもたちに語りかける英語の語りを聞くことができます。指導者の“語り”の練習を目的に作りましたが、CD をそのまま子どもに聞かせても、子どもはイラストの世界にはまり込んで、聞き続けています。

※*Wonderland Series* デジタル版

2000 年頃から教育機器のデジタル化が始まりましたので、2015 年前後にぼーぐなん教材のデジタル化を進めました。

*Wonderland Series* も、音源をスライドごとに分割して収録しています。

※3 冊の対象学年について

特に、厳密な学年指定はありません。敢えて、難易度で順位をつけるなら、上記のように①②③と言えるかもしれませんが、3 冊ともどちらかと言えば中学年の「外国語活動」の授業で、もっと英語に触れさせたい、という目的で利用することが多いと思います。子どもたちがいろいろな場面 (situation) で

英語と触れ合うことができる、という利点があります。

*Let's Try!* 1、2 で授業をされている現状では、各単元の場面と関係のあるテーマを扱っているものを使う、或いは、歌・ライム・諺 (Green Book) などを加えたいとき、そして絵本の読み聞かせに似た活動をしたときに、3冊のどれにも数点が音源と共に収録されていますから利用できます。

## 【2】 *Wonderland Series* による英語のやり取りを支える副教材

- ①ワークシート(A4、58 枚)：色塗りをしたり、折り紙をしたり、手作業をしながら、子どもたちと英語で楽しくやり取りを続けられるシート(授業用コピー可)
- ②動詞カード(B5)：50種類の動詞のイラスト、裏面にやり取りの英文例
- ③トランプサイズのカードセット
  - 1) ABC カード：大文字、小文字、26文字で始まる単語の絵カードの3種類
  - 2) カウンティング・カード：数えるための絵カード、数の綴りになれるカード
  - 3) BINGO カード：11ジャンルの生活語彙を9個ずつ選んだビンゴ・カード
  - 4) マッチング・カード：絵のペアをつくるマッチング・カード(※カードの遊び方詳細：ぼーぐなんホームページ参照)
- ④ジグソー・パズル：主にアルファベットをテーマに遊ぶ(ポスター有り)
- ⑤着せ替えセット：*Wonderland Series* 3冊のテキストと共に使える

*Wonderland Series* 3冊とこの付属の教材を併せて使い、英語でやり取りし、英語の音のおもしろさや英語を使い合う楽しさに触れておくと、*English in Action* 4冊の学習内容の理解が深まります。

新しいコトバを身につけるためには、声を出して音を確認して納得することが必要です。4年生になる前に、英語を使い、音を基盤にして学習することに慣れてお

くと、その後の中・高等学校での英語学習が容易になり、学習内容の量が増えても、たじろがずに英語をより深く学ぶことができるでしょう。

### 【3】制作の経緯

1980年に *English in Action* (4冊) のコースブックの制作を開始し、[ぼーぐなん英語教室] の5, 6年生対象のクラスで授業を始めたところ、集まった子どもたちの弟や妹たちも英語で遊びたくなりました。

子どもたちとやり取りをする内容を、幼い子どもたちの興味関心に合わせようと、急遽1987年に作ったのが *English in Wonderland* でした。

更に、高学年向けの *English in Action* で学習を始める前に、十分に英語のリズムやイントネーションに触れて「英語独特の音の流れ」を身につけ表現する楽しさを経験して欲しいと考え、続けて2冊 *Welcome to Wonderland* を制作し、それぞれのタイトルの文字の色からBlue Book、Red Bookと区別しました。*English in Wonderland* は、Green Bookとし、今に至っています。

※3冊のテキストのマニュアル原稿を鉛筆で書き、英文はタイプライターで打ち込みました。

手元にある冊子を見ると、イラストは黒白でコピー、文字も読みやすいとは言えません。

しかし、(株)ぼーぐなんが1980年代に児童英語教育について主張していた指導内容や指導方法に関する考え方が分かる貴重な資料だと思います。

機会があれば、お読みいただけるとありがたいと思います。

### 【4】 *Wonderland Series* から制作されたポスター (全11枚中6枚)

Green Book: ①小文字のアルファベット ②公園で遊ぼう ③12か月

④場所の前置詞 (in, on, under, by, with) アルファベット順

Red Book: 探せるかな What can you find?

Jigsaw Puzzle: 線に沿って 40 個にピースに切り離すと、パズルができます。

※ポスターを使ってやり取りをするためには、音源 (CD) と、やり取り例の英文を添えた

『大型ポスターCD について』『大型ポスターについて』の解説資料があります。

※ぼーぐなん・ホームページにも、授業での活用法と、やり取りの時に使える英文がありますから、是非参照してください。

## 【5】小学校で *Wonderland Series* が使われ始めて

2000 年代に入るところから、先ず私立小学校で、低学年の授業の教材として *Wonderland Series* の使用が始まりました。

そして、4 年生から、*English in Action* に移行して Book 3, 又は Book 4 まで学習するカリキュラムを組まれる例が増えました。

同じころに、公立小学校でも「総合的な学習の時間」に外国語活動として、英語を導入するケースが増えてきました。そして、私立小学校での実践を参観された公立小学校の先生方が、*Wonderland Series* のテキストに興味を抱かれ、表現活動の「やり取り」の素材として、Red Book や Green Book を試そうとされました。子どもたちがイラストに引き付けられるだけでなく、先生方が英語で語り続ける文例としても、音源の CD がお役に立ったようです。

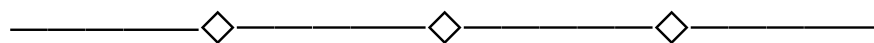
## 【6】子どもたちの「聞き方」 教えていない単語や英文を聞いてわかるのか

テキストを配り始めると、早速テキストを開いてパラパラとページをめくり、カラフルなイラストに見入っています。そして、教室のあちこちから、イラストの中に見つけたものを、日本語や英語で言うのが聞こえてきます。すべて、子どもの日常生活で使われているカタカナ語の語彙です。頃合いを見計らって音源 (CD) を聞かせ始めても、聞こえてくる単語を追い続けて、こちらの説明を待っている様子はありません。

イラストの内容を伝える語彙は、子どもが身近に聞いて使っているカタカナ語（外来語）ですから、明瞭に発音される内容語（意味を伝える語）を飛び石伝いに聞いていると迷子になりません。子どもは「分かった!このドーナツのことだ!」などと呟きながら、次に何を言うかな、と待ち構えています。知っている単語を耳にすると、それを繰り返すように、口元を動かし始めます。多量の英語だけの Input を英語のまま受け止めているのです。

音源を聞き終わった途端に、子どもたちから、「もう一度!」と催促された、という報告もあります。「もう一回!」という手拍子に、初めから聞き直したとのこと。

子どもたちは、更に聞き取れた単語を呟き、最初に聞き逃した単語も聞き取れて、英語を聞くことのおもしろさに気づいてくれたに違いありません。



子どもたちが英語を使いたくなるように、最初の出会いは、楽しくて、ワクワクするものでありたいと思います。そして、聞き続けることに自信をもち、次に聞こえてくる英語を待ち構えている気持ちを育てたいと思います。音源の問いかけや指導される先生方の誘いかけで、思わず英語で答えちゃった!という経験につながるでしょう。

Red Book, Blue Book, Green Book 各冊のページをめくり、子どもたちと楽しい時間を共有する方法を考え続けています。

久埜 百合 2021年夏